

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
高知県子ども・福祉政策部障害保健支援課内
高知県精神保健福祉協会
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@mopera.net
発行人 数井 裕光 編集人 諸隈 陽子

第284号

第62回高知県精神保健福祉大会

「やなせたかし 愛、勇気、希望を求める魂の旅」

～みんなが安心して暮らせる社会をめざして～



大会実行委員長
山下 元司

高知県精神保健福祉大会は精神保健福祉の知識・知見を、偏りなく普及する目的で開催されてきました。これまでの運営に関して先人の尽力に感謝すると同時に、本年度第62回の運営担当責任者に任命され責任を自覚するとともに、名誉ある役割を与えていただき御礼申し上げます。

今回のテーマのやなせたかし先生の生きざまは、前向きな思考、仕事を選ばない、親族の死の逆境から立ち上がった点などで、精神障害あるいは精神保健に有益な示唆を頂いています。やなせ先生は未来に対して肯定的で、自分の置かれた悲しい環境を克服してゆきました。「自分は何のために生まれてきたか」のやなせ先生自身の答は、「ひとを喜ばすために生まれてきた」です。また「この世の中に必要とされない人間はだれ一人いない。生きていい。」とも言いました。やなせ先生の作品は、豊かな想像力と心温まるストーリーで、世代を超えて人々の心に楽しさと癒しを与えてくれます。

やなせ先生は、香美市・南国市をルーツに持っており、同じ地域を基盤に持つ私どもの病院にとっても身近な存在です。今回、大会テーマを「やなせたかし 愛、勇気、希望を求める魂の旅」～みんなが安心して暮らせる社会をめざして～とし、やなせ先生の生き方、子どもたちに生きる希望を与えてくれるアンパンマンなど先生の作品を通して精神保健福祉について考える機会とさせていただきました。やなせ先生の職業はデザイナー・漫画家・絵本作

家・詩人・作曲家などとされており、業績を簡単には表現できないところがあります。

本大会では2つの講演を行います。

最初に公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団事務局長(学芸員)の仙波美由記氏をお迎えし、「一寸先は光」～やなせたかしの生き方と作品世界より～という演題でご講演いただきます。仙波氏は2003年から今日までやなせ先生の作品の収集・保存・研究を行って来られました。やなせ先生は、子どもたちに夢や希望を与えると同時に、やなせ先生本人が自身の作品を通して成長してきたと仰っています。やなせ先生の作品や人生観などを通して、みんなが安心して暮らせる社会を実現するためのヒントが得られることと思います。

次に高知県公立大学法人高知工科大学共通教育教室教授・健康管理センター長の池雅之氏をお迎えし、「アンパンマンの世界からみえる「こころ」について」という演題でご講演いただきます。池氏は、臨床心理士として医療機関での勤務や各種学校の講師などを務め、2015年から現職としてご活躍されるとともに、高知県臨床心理士会会長、日本ピア・サポート学会副会長、日本臨床心理士会代議員、高知県スクールカウンセラースーパーバイザーなども務められています。今回はその豊富な経験に基づいたお話をうかがえることと思います。

本大会は、新型コロナウイルス感染症が令和5(2023)年5月8日に5類に移行し規制が緩和された最初の大会となります。参加される皆様にとって有意義な時間となり、今後の生き方に少しでもお役に立てることを願っております。

目次

第62回精神保健福祉大会(案内)	1
第47回日本神経心理学会学術集会	2
発達障がい児に対するリハビリテーション	3

令和5年度大規模地震時医療活動訓練について	4
すべての人を『本』の世界へ	5
第62回高知県精神保健福祉大会	6

第47回日本神経心理学会学術集会 令和5年9月7日、8日

高知大学保健管理センター 医学部分室 上村直人 大会事務局長

9月7日、8日の両日、高知県立県民文化ホールにおいて第47回日本神経心理学会学術集会が高知大学医学部神経精神科講座教授、本協会会長の数井裕光が大会長となり開催されました。神経心理学とは、脳と精神機能や行動との関係性について科学的に研究する学問領域」とも言われ最近では神経学、精神医学、生理学、解剖学、心理学などが関連する非常に学際的な領域となっています。今回の学会は、「神経心理学を学ぶ、活かす、楽しむ」です。これは研究は楽しくないと長続きしない、という大会長の師匠の言葉を参考にして選んだそうで、学問を学び、活かしながら楽しむきっかけを大会参加者に体験していただく、もしくはきっかけにして欲しいという大会長の並々なぬ思いが込められているのではないかと思います。プログラムは、会長講演、理事長講演のほか、教育講演として「内受容感覚と神経心理学」寺澤悠理先生（慶應義塾大学文学部心理学専攻 感情神経科学研究室）、「てんかん学を神経心理に活かす」兼本浩祐先生（愛知医科大学精神医学講座）「神経心理学をリハビリテーションに活かす」前島伸一郎先生（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修部）、「アルツハイマー病の神経心理学」橋本衛先生（近畿大学医学部精神神経科学講座）、「統合失調症研究を神経心理学に活かす」村井俊哉先生（京都大学大学院医学研究科精神医学講座）、「Posterior cortical atrophy—update」

鈴木匡子先生（東北大学大学院医学系研究科 高次機能障害学分野）、「知覚と運動の循環を繋ぐ初めての理論—自由エネルギー原理」



乾敏郎先生（京都大学名誉教授）、「血管性認知症の診断・治療と神経心理」森悦朗先生（大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座）、「自閉症の感覚認知障害」高橋秀俊先生（高知大学医学部寄附講座児童青年期精神医学）の他、シンポジウムとして、「局所損傷・変性疾患・発達障害の比較神経心理学」「右優位型意味性認知症とsemantic behavioural variant frontotemporal dementia」「臨床神経心理士の未来」「高次脳機能障害と関連する病態：診断と対応のポイント」、「脳機能ネットワークの知見とその臨床への展開可能性」といった5つのシンポジウムと大会企画教育講演として神経心理学の経験を論文にしよう、船山道隆先生（足利赤十字病院 神経精神科）などが行われました。また本学会が最も重要視している症例発表はB会場：グリーンホールというこれまでこの学会では最大級の広さの部屋を利用して行いました。コロナ明けの久々の現地開催ということもあり500名を超える参加者が全国から集まり、神経心理学について大いにディスカッションができました。これもひとえに高知大学精神科の関連病院や同門の先生方、および関係者のご支援とご協力の賜物と感謝しています。天候にも恵まれ、またNHKドラマのらんまん効果もあり、参加者の方が勉強に、観光を楽しまれたことと思います。この場をお借りして、大会報告と協会の皆様からの協力に感謝申し上げます。



日本神経心理学会学術集会の様子

発達障がい児に対するリハビリテーション ～開設からの12年を振り返って～

芸西病院院長 山崎 一明
リハビリテーション部部长 加賀野井聖二

当院では平成23年より発達障がい児のリハビリテーション(以下リハビリ)を開始し、今年で12年目を迎えました。



発達障がいとは、生まれつきの脳機能の発達の偏りによる障がいです。また外見からは分かりにくく、その症状や困りごとは十人十色です。そのため、その特性を「自分勝手」「わがまま」「困った子」などと捉えられ「怠けている」「親の育て方が悪い」などと批判されることも少なくありません。当院では現在多くの関係医療機関からの紹介を受け、現在280名以上の子どもさんが通院しております。

以下、当院リハビリの取組みについてご紹介させていただきます。

当院では、リハビリ開始から1～2ヵ月の間に、可能な範囲内で同意を頂けたケースに対し、各教育現場へ出向き対象児の学習状況などを見学させていただいています。それにより対象児の強みと弱みを発見し、リハビリプログラムの作成に反映させています。プログラムを経て獲得されたことは、学校や自宅で生かせるよう関わっています。

また、より良い発達を促進するための治療プログ

ラムの実践・保護者、主治医、担任教員、心理師、保健師、セラピストによる年二回程度の支援会議を実施し、対象児の情報共有や対応方法について話し合いを行っています(必要性の高いケースにおいては毎月実施する場合があります)。さらに支援者の役割分担を明確化し、子どもや保護者が安心して活動できるように支援しています。

【保護者に対する支援(ペアレントトレーニング、カウンセリングなど)】

保護者の方から、「子どもへの対応の仕方がわからない」、「不安が強い」などの訴えが聞かれる場合があります。そのような保護者に対してはペアレントトレーニングを実施し、子どもへの対応の仕方について学ぶ機会を提供しています。また不安が強い保護者に対しては個別にカウンセリングを実施し、対応しています。

【病院での就労支援の実施】

当院では、子どもたちが「働く」ということを意識し、就労の年齢に達したときに不安や戸惑いを極力軽減できるよう就労支援事業を展開しています。1つは安芸市の「絆ファーム」北村氏にご協力いただき、毎年6月に「茄子の収穫体験事業」を通じて就労につなげるための支援事業を実施しています。

また「げいせいこどもマルシェ」を開催し、喫茶ブースの運営やフリーマーケットなど体験を通じて“働いて賃金を頂く”という経験を早期から体験することで、働くことに対する意識を身につけ、“就労の準備状態”をつくることができると考えています。

今後も、発達障がい児に対して、保護者を含めたよりよい支援が提供できるよう取り組んで参りたいと思います。

精神科医療の
真のパートナーを
目指して

田辺三菱製薬グループ

吉富薬品株式会社
大阪市中央区道修町3-2-10
<https://www.yoshitomi.jp/>

なんとかしたい。
だから、挑む。

Sumitomo Pharma

令和5年度 大規模地震時医療活動訓練について

令和5年9月29日～9月30日の2日間に令和5年度大規模地震時医療活動訓練が行われました。

この訓練は内閣府主催で国、地方公共団体等が連携して総合的な実働訓練を行い、組織体制の機能と実効性を検証するとともに、災害医療関係機関の相互協力の円滑化を目的としています。

今回は、南海トラフ地震により、四国4県、大分県、宮崎県で甚大な被害が発生したことを想定し、地域医療活動訓練（本部運営、域内搬送、参集拠点設置、SCU運営等）や災害派遣医療チーム（DMAT）及び災害派遣精神医療チーム（DPAT）の参集、活動訓練（各被災県への配分、災害拠点病院等での医療活動等）を実施しました。

高知県においては、県保健医療本部、支部運営のもと、県内外のDMAT・DPATの受援や被災した県内の医療機関への支援・傷病者の搬送等の訓練を実施しました。また、災害拠点病院をはじめ、医療機関や介護老人保健施設等では、被害報告・支援要請から受援までの一連の流れを訓練し、小学校では、避難所・救護所の立ち上げ訓練が行われました。

(1) 訓練の想定

- 発災日時：令和5年9月29日(金)午前11時
- 地震の規模：L1 想定(発生頻度の高い一定程度の地震)
- 震度分布や浸水範囲：「高知県版第2弾南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」に基づく

(2) 訓練内容

- 県保健医療本部及び支部の運営
(医療機関の被災状況の収集や要請事項への対応)
- DMAT・DPAT・医療救護チームの受援
- 各DMAT本部と県保健医療調整本部・支部の連携
- 福祉分野との連携
- 医療従事者搬送
- 避難所・救護所支援

今回取材したのは、医療法人南江会 一陽病院（以下、一陽病院）です。

一陽病院は、昭和42年に高知県須崎市で開院され、職員数154名、病床数218床、高幡地域唯一の精神科病院です。今回の訓練では、DMAT指定医療機関・災害拠点病院・広域的な災害拠点病院・訓練参加一般病院の枠があり、その中の訓練参加一般病院で一陽病院は参加されており、全部署の所属長・管理職26名が担当業務の遂行や状況報告などを行っていました。

訓練後に何うと、様々な職種の方から以下の感想が寄せられました。

- 訓練を行う事で、想定していなかった課題が挙がってきた。
- DPATの方がどんな役割や目的を持って支援に入ってくれるのか確認することができた。
- コーディネーターの方から指摘を頂いて自分の役割・立場・動き方を改めて理解できた。
- 各部署からの被害状況をボードへ記載し可視化することでじっくりと現状を把握することができた。

- 職員に災害を意識させるためには年に2回はこのような訓練を実施する必要があると感じた。
- 色々な職種で話し合う事ができたので、災害に対する意識が高まった。
- 必要な備蓄の準備や配置、衛星電話機や自家発電機の使用方法などを理解する事ができた。
- 日中の時間帯だけでなく、夜間帯を想定した訓練も必要。また、今回の訓練では管理職員が多数参加していたので、一般職員で対策本部を運用する事を想定したパターンも必要だと感じた。
- 備蓄品の使い方や保管場所の災害時用の設備の場所、使い方などを目的とした院内研修会を開いてほしい。
- 衛星電話機やEMISなどの訓練ができてよかった。
- 想定していた備蓄、支援物資の数量では不足と感じた。
- 対策本部の立ち上げ、情報整理の仕方などを実際に行う事で勉強になった。
- 被災した際にどういった情報が必要なのか、どういった事態が起こるのか、今回の訓練を通してイメージができてよかった。
- 訓練でざわついた状態だったが、実際に起きた際はこれ以上に情報が上手く伝わらず、切迫した状態になる。訓練ではあるが経験できたことが非常によかった。
- 思っていた以上に情報共有をする事が難しかった。記載内容などをシンプルにする事が必要。
- 在宅職員との連絡手段がない為、状況把握が難しい。連絡がとれている職員だけで患者対応に限界が出てくると感じた。

私は訓練を見学していましたが、皆さん実際に被災にした事を想定し、真剣に取り組まれていました。

現状の方法で情報共有ができるのか、改善できる所はないのかと皆で話し合いをされ、そうした事が同じ意識を持ち、最善の対応につながっていくのではないかと思います。

次の南海トラフ地震はいつ発生してもおかしくないような状況です。地震対策については早期の対応が必要と言われています。勤務されている場所だけでなく、大切なご家族や周りの方の多くの命がこの災害から守れるよう自分達で対策していく事が大事だと思いました。

最大クラスの南海トラフ地震が発生した場合、高知県内の全域で震度6弱以上の揺れが発生し、津波の到達時間は数分～10分以内、高さは全ての沿岸市町村で10m以上が想定されております。この規模の地震が発生した際、県内の至る所で道路や鉄道が寸断し、瓦礫に埋もれて早期の救助や支援物資の調達やが難になる事が予想されております。

精神科病院においても建物の耐震構造、飲料水・食料・医薬品などの備蓄、非常用発電装置、衛星携帯電話などの災害対策が必要になるかと思います。

この大規模災害訓練を行うことによって、想定した内容と実際との差、見えてなかった課題などが発見できたのではないのでしょうか。

(文責：久保浦)

すべての人を『本』の世界へ

あなたの読書をオーテピア高知図書館がサポートします!!

1. オーテピア高知図書館について

オーテピア高知図書館は、高知市追手筋にあります。当館は「会話」のできる図書館です。つい声が出てしまう方も無理に口を閉ざさなくて大丈夫です。静かに本を利用したい方のために、静寂読書室もあります。



込みは郵送、メール、窓口（来館）でできます。本は、セルフ貸出機を使って自分で借りられます。予約本の受け取りもセルフでできます。



▲手話・字幕付き利用案内動画

予約した本は高知市民図書館の分館・分室でも受け取れます。また、県内の市町村立図書館等で申し込むとオーテピア高知図書館の本を取り寄せることもできます。

●電子書籍・雑誌を読んでもみませんか？

スマートフォンやパソコンを利用して、電子書籍・電子雑誌をご自宅で読むことができます。



詳しくはこちら▲

2. どんな本があるの？

3階の健康・安心・防災情報スペースには、病気についての本、心理学・精神医学に関する本をはじめ、医学書、専門雑誌など約5万点を自由に見られるところに置いています。視聴覚資料コーナーには、朗読CD、落語CD、DVDなどもあります。

どんな資料があるかは、図書館のウェブ・サイトで調べられます。調べものに役立つ図書、雑誌、データベース、ウェブ・サイトなどをテーマごとにまとめた「調べものガイド」や、関連する資料をまとめた「ブックリスト」もあります。

●調べものガイド(パスファインダー)

『心の悩みと向き合う』『ひきこもりについて調べる』『アルコール依存症について調べる』など



●ブックリスト

『ヘルスリテラシー』『ひきこもり関連』『レジリエンス（回復力・弾力性・適応力）を高める』『バリアフリーDVDリスト』など



【常設展示のご案内】「知ることであなともわたしも楽にする～大人の発達障害～」(3階 健康-展示B-棚17)

「大人の発達障害とは」「暮らしや仕事をサポートする」「毎日が楽になる」などをテーマに、当事者だけでなく支援者にも役立つ資料を展示しています。



3. 本を借りるには

本を借りるには共通利用カードが必要です。登録の申

4. 図書館の利用に障害がある方へ

県内に在住の方で、病気やけが、障害などでお近くの図書館（市町村立図書館も含む）に行けない方を対象に、本やCDなどをご自宅や病院までお届けする宅配貸出サービスを行っています。貸出冊数5点まで、貸出期間は郵送期間を含み30日間で、延長はできません。送料は無料です。

ほかにも、対面音訳サービス、長期貸出などを行っています。詳しくは当館の「図書館の利用に障害のある方へ」のページをご覧ください。



5. ひきこもりピア相談会のご案内

当館では「ひきこもりピア相談会」を定期開催しています。まずはゆっくり話をしたい、話を聞いてほしい方を対象に、高知ひきこもりピアサポートセンター（高知県委託）から派遣されるひきこもりピアサポーターが、ひきこもりによって生じた悩みや不安についての相談に応じます。定員に達していない場合は当日でも対応します。お気軽にお越しください。



詳しくは当館イベント情報をご覧ください。

今回は2023年12月3日(日曜)

オーテピア高知図書館

〒780-0842 高知県高知市追手筋2-1-1

TEL :088-823-4946

FAX :088-823-9352

https://otepia.kochi.jp/library/



●開館時間

火曜～金曜：午前9時～午後8時

土曜：午前9時～午後6時（7・8月は午後8時まで）

日曜・祝日：午前9時～午後6時

●休館日

月曜日（祝日の場合は開館）

毎月第3金曜日（8月及び祝日を除く）

第62回高知県精神保健福祉大会

「やなせたかし 愛、勇気、希望を求める魂の旅」

～みんなが安心して暮らせる社会をめざして～

手話通訳
要約筆記
あり

入場
無料

講演
タイトル

「一寸先は光」

～やなせたかしの生き方と作品世界より～

やなせたかし (1919～2013) は香美市香北町出身の漫画家であり、絵本作家・詩人・イラストレーター・雑誌編集等、幅広い分野で活躍したマルチクリエイターです。代表作であるアンパンマン作品はもとより、30年間続けた雑誌『詩とメルヘン』の編集等を通じて、自身の“生きる”意味を問い続け生涯にわたり“現役”作家として前向きなメッセージを発信し続けました。今回の講演では、やなせたかし自身が苦境を乗り越え、晩年アンパンマン作品で成功を収めるまでの過程やそれを支えた自身の人生観、またそこから生み出された作品の数々をご紹介しますとともに、没後10年を経てなお、遺したやなせ作品が我々に与える“生きる希望”、その魅力についてご紹介します。

講師

公益財団法人やなせたかし記念
アンパンマンミュージアム
振興財団事務局長(学芸員)

せんば みゆき
仙波 美由記



講演
タイトル

「アンパンマンの世界から
みえる『こころ』について」

アンパンマンの生みの親は「やなせたかし」さん。これ程日常に浸透しているとは思っていませんでした。自宅には孫のジクソーパズルやスリッパ、ダイヤルボタンをプッシュすれば「僕アンパンマン」と発する電話機の玩具。高知駅では「アンパンマンのマーチ」の発車音、四国ではアンパンマン列車が行き来します。ごめんなはり線の各駅には、それぞれの駅名にちなんだオリジナルキャラクター。アンパンマンシリーズのキャラクター数はギネス記録になっていると聞いています。職場までにアンパンマンの路線バスにも遭遇します。大学病院の壁にもアンパンマンの仲間が登場します。それらを見ると心理カウンセリングにも少しゆとりが生まれます。いつのまにか私たちが元気づけているアンパンマンの世界、心理士の視点から見える「こころ」について当日はご紹介しましょう。

講師

高知県公立大学法人
高知工科大学共通教育教室 教授
健康管理センター長

いけ まさゆき
池 雅之



日時

令和5年11月15日(日)
午後1時～4時10分

場所

高知県立県民文化ホール(グリーン)

プログラム

- PM 1:00 開会あいさつ
高知県精神保健福祉協会会長 数井 裕光
来賓あいさつ
高知県知事 濱田 省司
高知市長 岡崎 誠也
高知県医師会会長 野並 誠二
- PM 1:20 表彰式
- PM 1:30 …………… 休 憩 ……………
- PM 1:45 講演
演題 「一寸先は光」
～やなせたかしの生き方と作品世界より～
講師 公益財団法人やなせたかし記念
アンパンマンミュージアム振興財団事務局長(学芸員)
仙波 美由記
- PM 2:45 …………… 休 憩 ……………
- PM 3:00 講演
演題 「アンパンマンの世界からみえる『こころ』について」
講師 高知県公立大学法人高知工科大学共通教育教室 教授
健康管理センター長
池 雅之
- PM 4:00 閉会あいさつ
高知県精神保健福祉協会副会長 橋詰 宏

[主催・事務局]

高知県精神保健福祉協会
高知市丸ノ内1-2-20

高知県子ども・福祉政策部障害保
健支援課内

TEL:088 (823) 9669

E-mail:kochi-mhwa@mopera.net



当協会HP

